

沖縄 医療職の休業続出

感染・濃厚接触「医療崩壊だ」悲鳴

まん延防止等重点措

置の適用が決まった沖縄県で医療提供体制の逼迫（ひっぱく）懸念が強まっています。新型コロナウイルス新規感染者数が過去最多を連日更新する中、感染や濃厚接觸による自宅待機などで休業を余儀なくされる医師や看護師らが続出。手術や入院を制限する病院も出ており、「医療は崩壊していく」との声も上

がります。

県によると、休業中の医師や看護師、事務職員は午後7時頃で約

120人でしたが、6日には約200人に上り、7日には21の医療機関で30~33人に達しました。人手不足からコロナ病床の確保にも影響が出ています。

県中部の地域医療を担う民間病院は、コロナ病床21床中、10床が

埋まっています。医療

従事者約20人が出勤で

きない状況で、10病棟のうち6病棟が患者の入退院もできない「封鎖」状態に追い込まれました。担当者は「昨

年未から職員の感染が

増え始め、家庭内の感

染が多い。看護師が休むと病棟運営ができない

くなる」とし、「患者の

が相次ぎます。担当者が相次ぎます。担当者が

が目に見えている」と

言いました。

その上で、「救急で

入院が必要な場合は南

部の病院に転院しても

ううなど、何とかしの

いでいる。はっきり言つて医療崩壊している

と悲鳴を上げまし

た。

県のコロナ対策専門

会議メンバーで、沖

縄赤十字病院第1救急部長の佐々木秀章医師

は5日の会議で、「一

番の問題は医療スタッ

フの休業。これが時間

単位で増えていく状況

だ」と指摘。「医療供給の切羽詰まった状態

が目に見えている」と

言いました。

でも医療従事者の休業

が相次ぎます。担当者が

が年明けから急に増

がる」といふ現象が

あらわにしました。

食で感染した人がい

る」と明かします。医療提供体制について

「他の病院が救急を制限しているため、こちらの病院の救急が増えている。手術は重要度に応じて延期し、入院も待てるものは待ってもらっている」と話しました。